

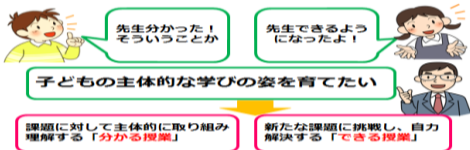
伊仙町立鹿浦小学校 公開研究会

平成 30 年 1 月 26 日 (金)

子ども一人一人が主体的に学び、「分かる」「できる」を実感できる複式指導の創造
～ 子どもの学びを支える ICT 活用を通して ～

I 研究の構想と内容・実際

主題設定の理由（職員の違い）



子どもの主体的な学びの姿を育てたい

理解に対して主体的に取り組み理解する「分かる授業」

新たな課題に挑戦し、自力解決する「できる授業」

めざす子どもの姿

- 必要感のある「問い」をもつ子ども
- 「問い」を解決するために友達と協力しながら、よりよい考えや表現を求めて主体的に取り組む子ども
- 学びのよさを実感し、次の学習への意欲をもつ子ども

研究の内容

研究Ⅰ 子どもが主体的に学ぶ授業構想と ICT の活用

- 子どもが主体的に学ぶ授業構想**
 - ・ 課題解決に向けて主体的に学ぶ「子どもの考え」の想定
 - ・ 主体的な学びを促す手立てと ICT 活用の視点
- 主体的に学ぶ考えをもたせ、達成感を味わわせる ICT 活用**
 - ・ 導入場面「つかむ」「見通す」での活用（目標の明確化）
 - ・ 追究場面「調べる」「まとめる」「広げる」での活用（山場の工夫）
 - ・ まとめ場面「確かめる」「深める」での活用（確かめ・見届け）

研究Ⅱ 複式学級における子どもの学びを支える土台作り

- 学びを支える学習規律**
 - ・ 聞き方、話し方 ・ ノートのとり方
- 学び方の習得**
 - ・ 発表の仕方 ・ ガイド学習の進め方
- 家庭学習の充実**

子どもが主体的に学ぶ授業構想（一部抜粋）

	基本的な学習活動と各過程で重視する子どもの考え（A）	主体的な学びを促す手立て（B）	主体的な学びを支える ICT 活用とその視点（C）
つかむ・見通す（目標の明確化）	1 興味・関心が生まれる導入 「分かっていること・分からないことは何か」「今まで習ったことが使えるかな」	□ 興味・関心を刺激する課題の工夫 ・ 驚き、意外性、矛盾 ・ 身近な生活との関連 ・ 五感に訴えるもの ・ 必要感 ・ 適度な困難さ	□ 興味・関心を引き出すための画像や動画の提示
	2 課題（問題）意欲の焦点化 「何だろう」「なぜだろう」「学びたい」「やってみよう」	□ 必要感をもたせたい工夫 ・ 既習事項（体験） ・ 教師の問い	□ 課題提示による学びのポイントの具体化 視覚化 焦点化 共有化
	3 学習課題（問題）の設定 「～を調べたい」「～をできるようにしたい」	□ ゴールへの見通しをもたせる工夫 ・ 解決方法 ・ 解決の順序 ・ 学び方	※ 導入の短縮による思考する時間の確保 ※ 「学習の流れ・進め方」の理解
	4 解決の予想と見直し 「どのように進めたいかな」「～するといいな」		

ICT 活用の実際



大型テレビによる動画や画像の提示による意欲化・焦点化



タブレット端末の活用による子どもの思考・判断の支援



タブレット端末による変容の自覚と学習内容の共有化



タブレット端末の活用による試行錯誤の繰り返し



拡大提示による子どもの考え・意見の可視化



タブレット端末による習熟（家庭学習での活用）

複式学級における子どもの学びを支える土台作り（学習規律・学び方）



ガイド学習・ひとみ学習



ノートのとり方



発達段階に合わせた発表話型

II 研究授業及び分科会の様子 一般参加：62 名

公開授業 複式 1・2 年



1年：「20 より大きい数」



2年：「10000 までの数」

【分科会・感想用紙で出された意見】

- ・ 子どもたちが意欲もち、主体的に学んでいる姿が見られた。
- ・ 子どもの考えを想定した授業構想の成果で、各段階で確かな考えをもたせることができていた。普段の授業の充実ぶりがよく分かった。
- ・ 一人一人の考えや学習の足跡をどのように記録に残すか課題である。

【指導助言】

- ・ 子どもの姿が答えである。主体的に学ぶ素晴らしい授業であった。担任が子どもの状況、教材の特性をよく理解し、授業に臨んでいる。
- ・ 本地区では、複式学級が 20% 近くあり、学力向上が大きな課題である。教師が子どもたちと真摯に向き合い、指導力・授業力を付けてほしい。

公開授業 複式 5・6 年



5年：説得力のある構成を考え、すいせんするスピーチをしよう／「すいせんします」



6年：話し方を工夫し、資料を示してスピーチをしよう／「今、私は、ぼくは」

【分科会・感想用紙で出された意見】

- ・ 子どもたちが落ち着いた様子で集中して学習取り組んでいた。単式でも複式のよさを生かしたい。
- ・ ICT 機器を使用する意図が明確で、効果的だった。有効活用できる場面が明確になってきている。
- ・ 考えを交流する場や教師の発問・指示を工夫することで学びの深まりも変わったのではないかと。

【指導助言】

- ・ 子どもにもたせたい考えを想定し、授業を組み立てると共に、考えをもたせるために ICT 機器が有効活用されていた。また、個から個への「わたり」でよく見届けがなされていた。
- ・ 子ども同士で練り上げる交流の場づくりや意図的な教師の発問によって、深く考える質の高い授業ができる教師を目指してほしい。